

科目名	理学療法研究基礎ゼミナール I		担当教員	田畑 稔	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	2 年次より医療・企業・事業など専門的なスキルを展開した講師より講義を受ける。そこで、医療・地域生活に対し、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを担当教員の指導を受けて自ら研究デザインを探り出す。ここでは、医療・経済・環境などの社会的変化に興味をもち、より多くの課題に着目し継続的に社会構造・未来的創造をもった能力と資質を養い専門性を身につけることを学習課題とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を探り出す。 2. 経済・地域社会・環境について調べる能力を身につける。 3. 教員・地域住民とのコミュニケーションを身につける 4. 自ら行動し研究に必要な情報収集能力を身につける。

授業内容	
理学療法研究基礎ゼミナール I では、担当教員配置・研究テーマを決める作業を目標に学習します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究テーマに沿った教員を決定する。 2. 研究テーマを担当教員と共に探り出す。 3. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 4. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 5. 論文・研究レポートなどの検索作業をする。 6. 研究テーマの決定。 7. 理学療法研究基礎ゼミナール II につなげる作業を行う。 	

評価法基準	ゼミナール課題：60% 口頭発表：40%
教科書	担当教員より資料を配布。
参考書	なし
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	水曜日（12:10～12:50）、4-1 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ		担当教員	清宮 清美	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	医療専門職として、どのように地域社会とのかかわりを持って行くか演習する。医療・経済・環境などの社会的変化が醸し出す多くの課題に着目し、それらを踏まえて医療・地域社会に対して、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを探り出す。その能力と資質を養い専門性を身につけることを学習課題とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を探り出す。 2. 経済・地域社会・環境について調べる能力を身につける。 3. コミュニケーション力を身につける。 4. 自ら行動し研究に必要な情報収集能力を身につける。

授業内容	
理学療法研究基礎ゼミナールⅠでは、興味のあるジャンルを決め、研究デザインを考える作業を目標に学習する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 興味のあるジャンルを決定する。 2. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 3. 研究課題に対し、担当教員より講義、助言を受ける。 4. 論文・研究レポートなどの検索作業をする。 5. 研究テーマを決定する。 6. 理学療法研究基礎ゼミナールⅡにつなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：60％ 口頭発表：40％
教科書	なし 必要に応じて資料を配布。
参考書	今まで使用した教科書等
履修上の注意	専門領域の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	理学療法研究基礎ゼミナール I		担当教員	鳥居 昭久	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>理学療法士は医療人として診療活動をすると同時に、知識と技術の研鑽を怠ってはならない。本ゼミでは、理学療法士が取り組む研究活動について学び、自らも疑問を持ち、それを探求する力を身に付けることをめざす。</p> <p>本ゼミの基本的なテーマは、「障がい者のスポーツ活動に関わる事項」「健康に関する事項」「スポーツ障害に関わる事項（特に女性スポーツ選手における問題）」である。まずは、この分野での先行研究を自らで調べ、その概要を学び、また、そこから新たな疑問を見つけることに取り組む。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法研究の先行研究論文の読解をすることができる ・理学療法研究の進め方について説明することができる ・自らの疑問点について調査し、その成果を説明することができる

授業内容	
<p>①理学療法研究について学ぶ（座学）</p> <p>②本ゼミのテーマに沿った先行研究論文を選び、読解し、その内容を説明する（プレゼンテーション）</p> <p>③ゼミ構成員全体で、先行研究論文の結果を参考に、まだ明らかになっていない事項についてディスカッションする</p> <p>④学生毎に、自らが探求するテーマを見つけ出し、それに必要な参考文献を集める</p> <p>⑤必要に応じて、障がい者のスポーツ活動の現場に見学に出向き、実際のスポーツ活動における問題点を調査する</p> <p>⑥簡易研究計画書を作成する</p>	

評価法基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ時間内に行うプレゼンテーション（30%） ・施設見学レポート（30%） ・簡易研究計画書の作成（40%）
教科書	特に指定しない
参考書	関係成書
履修上の注意	<p>本ゼミは、放課後、土日休日を使って、スポーツ現場に出向くことが有ります。したがって、必要に応じて、日程調整をする。アルバイトなどの私用は適宜調整することを求めます。また、本ゼミはアクティブラーニングを主体に運営します。各自が主体的、積極的に自らのテーマに取り組むことを求めます。</p>
オフィスアワー	適宜、必要に応じて対応します。

科目名	理学療法研究基礎ゼミナール I		担当教員	大矢 暢久	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	2 年次より医療・企業・事業など専門的なスキルを展開した講師より講義を受ける。そこで、医療・地域生活に対し、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを担当教員の指導を受けて自ら研究デザインを探り出す。ここでは、医療・経済・環境などの社会的変化に興味をもち、より多くの課題に着目し継続的に社会構造・未来的創造をもった能力と資質を養い専門性を身につけることを学習課題とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を探り出す。 2. 経済・地域社会・環境について調べる能力を身につける。 3. 教員・地域住民とのコミュニケーションを身につける 自ら行動し研究に必要となる情報収集能力を身につける。

授業内容	
理学療法研究基礎ゼミナール I では、研究テーマを決める作業を目標に学習します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを担当教員と共に探り出す。 2. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 3. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 4. 論文・研究レポートなどの検索作業をする。 5. 研究テーマの決定。 	
理学療法研究基礎ゼミナール II につなげる作業を行う。	

評価法基準	課題レポート：60% 口頭発表：40%
教科書	担当教員より資料を配布する。
参考書	担当教員より資料を配布する。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	水曜（12:10～13:00） 3-12 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナール I		担当教員	加藤 剛平	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>当ゼミナールの目的は、自身が行ってみたい研究テーマを教員と共に決めることである。当ゼミナールでは「地域在住高齢者の社会参加を促す環境整備に関する研究」、「働く高齢者の健康支援に関する研究」、「ヘルスサービスリサーチの手法を用いた理学療法の質の評価」、「理学療法による効果の臨床経済学的評価」の他に学生自身が興味を持つ分野からテーマを見出す。テーマを決める過程では、文献収集の技法を学び、文献を解釈する力を養う。また文献から得られた知識とゼミ内での議論を重ねて、自身で行ってみたいテーマを明らかにする。最終的には取り組むテーマについて発表することで、テーマに対する理解を最大限に深める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各ゼミにおいて、教員と共に研究テーマを決める。 2. 研究テーマについて調べる能力を身につける。 3. 自ら行動し研究に必要となる情報収集能力を身につける。

授業内容	
<p>理学療法研究基礎ゼミナール I では、担当教員配置・研究テーマを決める作業を目標に学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究テーマに沿った教員を決定する。 2. 研究テーマを担当教員と共に探り出す。 3. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 4. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 5. 論文・研究レポートなどの検索作業をする。 6. 研究テーマの決定。 7. 理学療法研究基礎ゼミナール II につなげる作業を行う。 	

評価法基準	<p>課題レポート：60%</p> <p>口頭発表：40%</p>
教科書	<p>各担当教員より資料を配布。</p> <p>専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。</p>
参考書	なし
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	金曜（授業の前後）、3・20 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナール I		担当教員	武井 圭一	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	「デジタルゲームのリハビリテーションへの応用」を広義のテーマとして、関連関連する先行文献を検索・レビューすることで、課題を明らかにする。関連研究に関する講義・基礎的な研究法の講義を実施する。さらに、グループ演習を反復することで研究テーマを立案する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを立案する。 2. ディスカッションを通じて自身の考えを具体化する能力を身につける。 3. 研究に必要な情報収集能力を身につける。 4. 自らの研究課題を設定する。

授業内容	
<ol style="list-style-type: none"> 1. デジタルゲームをリハビリテーションに応用した研究に関する講義を受ける。 2. 研究法の講義を受ける。 3. 文献検索、過去の知見を整理する作業を行う。 4. レポート課題と発表、およびディスカッションを行う。 5. デジタルゲームに関する課外活動を計画する。 6. 研究テーマの決定。 	

評価法基準	レポート 60% 口頭発表 40%
教科書	担当教員より資料を配布。
参考書	なし
履修上の注意	自身の考えている内容について、不確定な段階から積極的に表出するように心掛ける。 他学生の意見に興味を持ち、協調して研究活動に取り組む。
オフィスアワー	火曜 (12:10~12:50)、3-11 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナール I		担当教員	富田 義人	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	2 年次より医療・企業・事業など専門的なスキルを展開した講師より講義を受ける。そこで、医療・地域生活に対し、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを担当教員の指導を受けて自ら研究デザインを探り出す。ここでは、医療・経済・環境などの社会的変化に興味をもち、より多くの課題に着目し継続的に社会構造・未来的創造をもった能力と資質を養い専門性を身につけることを学習課題とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を探り出す。 2. 経済・地域社会・環境について調べる能力を身につける。 3. 教員・地域住民とのコミュニケーションを身につける 4. 自ら行動し研究に必要な情報収集能力を身につける。

授業内容	
理学療法研究基礎ゼミナール I では、担当教員配置・研究テーマを決める作業を目標に学習します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究テーマに沿った教員を決定する。 2. 研究テーマを担当教員と共に探り出す。 3. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 4. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 5. 論文・研究レポートなどの検索作業をする。 6. 研究テーマの決定。 7. 理学療法研究基礎ゼミナール II につなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：60%、口頭発表：40%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	なし
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。 課題レポートや発表の機会を失わないため、出席は重要。
オフィスアワー	授業終了後 3・14 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅠ		担当教員	杉山 真理	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>理学療法研究法を基礎として、理学療法研究の意義と臨床研究課題の探索方法を学ぶ。理学療法卒業ゼミナールに向けて、テーマの選定、論文の探索方法、論文構成を学修し、論文内容を理解できるようにする。学習習慣を身につけ、将来理学療法を行う時に必要な情報収集能力や、学修態度を身につける。ゼミ形式をとり、論文抄読を通してお互いに情報交換する。また卒業論文のテーマを探してゆく。主に車椅子シーティング、生活期のリハビリテーション（肢体不自由）、障がい者スポーツをテーマとする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究課題の探索方法を学び、自らのテーマを選定できる。 2. 研究テーマ領域の先行研究やフィールドワークから研究テーマを探り出すことができる。 3. 論文の探索方法および論文構成を理解できる。 4. 学習習慣を身につける。

授業内容	
<p>担当教員と共に研究テーマを明確にする。</p> <p>研究テーマを選定するために、先行研究の論文抄読やフィールドワークを行う。</p> <p>論文・研究レポートなどの検索作業を行う。</p> <p>理学療法研究基礎ゼミナールⅡの準備を行う。</p>	

評価法基準	課題レポート 60%、口頭発表 40%
教科書	講義にて紹介する
参考書	講義にて紹介する
履修上の注意	自ら学ぶ意欲と姿勢を持って参加すること。積極的な取り組みが必要です。理学療法研究基礎ゼミナールⅡおよび卒業研究につながるように、計画的に学習することが必要です。
オフィスアワー	木曜（昼休み 12：10～13：00） 3-25 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナール I		担当教員	岩本 浩二	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法に関連する具体的な課題からテーマを設定し、研究の過程を指導する。授業の中で、医療・地域生活に対し、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを担当教員の指導を受けて自ら研究デザインを探り出す。当ゼミナールでは「スポーツ理学療法」、「アスレティックリハビリテーション」、「肩関節痛、腰痛など運動器障害」のほか、学生が興味のあるテーマについても研究の指導を行う。研究指導のほかそれに関連する演習課題などを実施し、より多くの理学療法士における専門性を身につけ理学療法関係の課題から、研究テーマを設定し、研究過程を通して研究の基本を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを設定することができる。 2. 研究テーマを設定する過程で文献を収集することができ、また文献内容を解釈することができる。 3. 授業を通して教員とのコミュニケーションをとることができる。身につける 4. 自ら行動し研究に必要な情報を収集することができる。

授業内容	
理学療法研究基礎ゼミナール I では、担当教員配置・研究テーマを決める作業を目標に学習します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究テーマに沿った教員を決定する。 2. 研究テーマを担当教員と共に探り出す。 3. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 4. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 5. 論文・研究レポートなどの検索作業をする。 6. 研究テーマの決定。 7. 理学療法研究基礎ゼミナール II につなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：60% 口頭発表：40%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	なし
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	午前授業日：授業終了後昼休み（12:10～12:50）、4-6 研究室 午後授業日：授業後放課後（17:50～18:30）、4-6 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナール I		担当教員	田中 直樹	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	ロボットリハビリテーションの経緯や効果などについての講義と、ロボットリハビリテーションの体験によって、ロボットリハビリテーションについての知識を深める。またロボットリハビリテーションの情報収集、関連する論文の要約について演習を行い、卒業研究に繋がる研究テーマを探り出す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを探り出す。 2. 研究に必要な情報収集能力を身につける。 3. 研究に必要な評価技術を身につける。 4. 研究テーマに関連する論文の要約ができるようになる。

授業内容	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロボットリハビリテーションについて学習する。 2. ロボットリハビリテーションを体験する。 3. ロボットリハビリテーション現場を見学する。 4. ロボットリハビリテーションについての論文を収集する。 5. 研究に必要な評価方法を学習する。 6. ロボットリハビリテーションに関連する論文の文献抄読を実施する。 7. 研究テーマを探り出す。

評価法基準	課題レポート：70% 口頭発表：30%
教科書	なし
参考書	必要に応じて資料を配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法研究法の講義資料を熟読すること ・ 卒業研究へとつながる科目のため、課題は能動的に取り組む姿勢が必要。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	理学療法研究基礎ゼミナール I		担当教員	安田 和弘	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	高齢者や中枢神経疾患に対するシステム開発等を題材として、研究のための基本的スキルを学ぶ。具体的には、プレゼンテーション・情報検索・ライティング等のスキルを習得する。特にゼミナール I では、これらの基本的な知識を文献供覧しつつ概観し、最終的には課題を実際に行うことで、実践力を身に付ける。これらの技術習得と併せて、自己の持つ関心から研究テーマを設定する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の社会課題から研究テーマを発見する。 2. 研究における実践的なプレゼンテーション力を身に付ける。 3. 課題解決に必要な文献調査力を養う。 4. パラグラフライティングによる文書表現術を学ぶ。

授業内容	
<p>医療や福祉現場の様々な場面で、他者に対して情報を提示し、理解と納得を得るためのスキルが益々重要となっている。本ゼミでは、情報伝達のための基本技術となるプレゼンテーションスキル・調査手法・ライティング技術を学修し、医療・福祉現場、産学連携等の広い場面で活かせる技術の習得を目的とする。具体的には、プレゼンテーションの基本となる態度や論理的思考について理解し、パワーポイントを利用した発表および議論を少人数形式で展開する。その過程で必要となる調査手法、情報整理のためのライティング技術も併せて習得する。特に、中枢神経系理学療法・バイオメカニクス・リハビリテーション医療工学の開発分野などの具体的な題材を用いた演習を行うことで、情報提供するための実践的なスキルを育成する。</p>	

評価法基準	<p>課題レポート：60%</p> <p>口頭発表：40%</p>
教科書	担当教員により資料を配布する
参考書	標準理学療法学：理学療法研究法（医学書院）
履修上の注意	ディスカッションを中心に実施するため積極的に発言すること。
オフィスアワー	火曜（12:10～12:50）、6-6 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	田畑 稔	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	医療・企業・事業など専門的なスキルを展開した講師より講義を受け、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを担当教員の指導を受けて自ら研究デザインを探り出す。ここでは、医療・経済・環境などの社会的変化に興味をもち、より多くの課題に着目し継続的に社会構造・未来的創造をもった能力と資質を養い専門性を身につけることを学習課題とする。最終的に、教員と共に研究計画書の作成を目標とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を探り出す。 2. 経済・地域社会・環境について調べる能力を身につける。 3. 教員・地域住民とのコミュニケーションを身につける 4. 自ら行動し研究に必要となる情報収集能力を身につける。 5. 研究に必要となる、研究計画書に必要となる書類の作成と倫理審査を受ける。

授業内容	
理学療法研究基礎ゼミナールⅡでは、研究テーマの決定に伴い研究計画書・依頼書・同意書の書類の作成、倫理審査を受ける作業を目標に学習します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った先行研究・論文・文献検索の調査作業。 <ol style="list-style-type: none"> ① データベースから必要となる先行研究を選び出す作業。 ② 研究概要について調査・整理を実施する。 2. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 3. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 4. 研究テーマに沿って、研究デザインから仮設の設定。 <ol style="list-style-type: none"> ① 研究テーマについて、明確に述べることができる。 5. 研究計画書・研究依頼書・研究同意書・倫理審査申請に必要となる書類の作成。 6. 理学療法研究卒業ゼミナールⅠにつなげる作業を行う。 	

評価法基準	ゼミナール課題：20% 研究計画書の作成：60% 口頭発表：20%
教科書	担当教員より資料を配布。
参考書	なし
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	水曜（12:10-12:50）、4-1 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	清宮 清美	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	医療専門職として、どのように地域社会とのかかわりを持って行くか演習する。医療・経済・環境などの社会的変化が醸し出す多くの課題に着目し、それらを踏まえて医療・地域社会に対して、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを探り出す。その能力と資質を養い専門性を身につけ、最終的に教員と共に研究計画書を作成することを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を探り出す。 2. 経済・地域社会・環境について調べる能力を身につける。 3. コミュニケーション力を身につける。 4. 自ら行動し研究に必要な情報収集能力を身につける。 5. 研究に必要な、研究計画に必要な書類の作成と倫理審査を受ける

授業内容	
理学療法研究基礎ゼミナールⅡでは、研究テーマの決定に伴い研究計画書・依頼書・同意書の作成、倫理審査を受ける作業を目標に学習する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った先行研究・論文・文献検索の調査作業。 2. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて探索する。 3. 研究テーマに沿って研究デザインから仮説を設定する。 4. 研究計画書・研究依頼書・研究同意書・倫理審査申請に必要な書類等の作成。 5. 理学療法卒業研究ゼミナールⅠにつなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：20％ 研究計画書の作成：60％ 口頭発表：20％
教科書	なし 必要に応じて資料を配布。
参考書	今まで使用した教科書等。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	鳥居 昭久	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	本ゼミの基本的なテーマは、「障がい者のスポーツ活動に関わる事項」「健康に関する事項」「スポーツ障害に関わる事項（特に女性スポーツ選手における問題）」である。本ゼミでは、前期に開講された、理学療法研究基礎ゼミナールⅠの成果と、最新の研究を参考に自らの研究テーマを確立し、具体的な研究計画を立案することをめざす。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの研究テーマを確立し、それを第3者へ説明することができる ・関連学会に参加し、そこで学んだ最新の研究について説明することができる ・具体的な研究計画を立案し、基礎研究をすることができる

授業内容	
<p>前期に開講された、理学療法研究基礎ゼミナールⅠの成果から、具体的な研究方策を立案し、データの収集を行う。可能であれば、データをまとめ、考察する作業まで取り組めることを目指す。</p> <p>①関係学会に参加し、最新の研究を知る。</p> <p>②前期の理学療法研究基礎ゼミナールⅠの成果を発展させ、具体的な研究テーマを確立する</p> <p>③自らのテーマに関わる参考文献を収集、読解し、その内容についてプレゼンテーションをする</p> <p>④研究テーマに沿った研究計画書の作成を行い、それを説明する</p> <p>⑤テーマに沿って、フィールドワークを行い、具体的なデータの収集を行う</p>	

評価法基準	<ul style="list-style-type: none"> ・学会参加および報告（30%） ・研究計画書の作成（50%） ・論文抄読発表（20%）
教科書	特に指定しない
参考書	関係成書
履修上の注意	本ゼミは、放課後、土日休日を使って、スポーツ現場に出向くことが有ります。したがって、必要に応じて、日程調整をする。アルバイトなどの私用は適宜調整することを求めます。また、本ゼミはアクティブラーニングを主体に運営します。各自が主体的、積極的に自らのテーマに取り組むことを求めます。また、関係学会に参加し、そこでの学びを求めます。
オフィスアワー	適宜対応します

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	大矢 暢久	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	医療・企業・事業など専門的なスキルを展開した講師より講義を受け、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを担当教員の指導を受けて自ら研究デザインを探り出す。ここでは、医療・経済・環境などの社会的変化に興味をもち、より多くの課題に着目し継続的に社会構造・未来的創造をもった能力と資質を養い専門性を身につけることを学習課題とする。最終的に、教員と共に研究計画書の作成を目標とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を探り出す。 2. 経済・地域社会・環境について調べる能力を身につける。 3. 教員・地域住民とのコミュニケーションを身につける 4. 自ら行動し研究に必要な情報収集能力を身につける。 5. 研究に必要な、研究計画書に必要な書類の作成と倫理審査を受ける。

授業内容	
理学療法研究基礎ゼミナールⅡでは、研究テーマの決定に伴い研究計画書・依頼書・同意書の書類の作成、倫理審査を受ける作業を目標に学習します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った先行研究・論文・文献検索の調査作業。 <ol style="list-style-type: none"> ① データベースから必要となる先行研究を選び出す作業。 ② 研究概要について調査・整理を実施する。 2. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 3. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 4. 研究テーマに沿って、研究デザインから仮設の設定。 <ol style="list-style-type: none"> ① 研究テーマについて、明確に述べることができる。 5. 研究計画書・研究依頼書・研究同意書・倫理審査申請に必要な書類の作成。 6. 理学療法研究卒業ゼミナールⅠにつなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：20%、研究計画書の作成：60%、口頭発表：20%
教科書	担当教員より資料配布。
参考書	担当教員より資料配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	水曜（12:10～13:00） 3-12 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	加藤 剛平	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>大学入学時より、学生一人一人が医療従事者・研究者として行動し学習する。卒業研究に向けて、日頃から身近な人々の生活環境や地域社会に興味や関心・疑問をもって行動し研究テーマを探し出す。大学では、初年次より研究テーマについて多彩な講義を受け、実際に地域・医療で研究開発を行っている教員の指導を受け研究を長期にわたって実施する。研究テーマは、医療・スポーツ・生活環境・自立支援など多彩な研究テーマを担当教員と共に選択し、研究計画に基づいて展開し研究活動を通して、地域社会に貢献する態度を習得する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を探り出す。 2. 研究テーマについて調べる能力を身につける。 3. 教員・関係者とコミュニケーションする能力を身につける 4. 自ら行動し研究に必要な情報収集能力を身につける。 5. 研究に必要な、研究計画書に必要な書類の作成と倫理審査を受ける。

授業内容	
<p>理学療法研究基礎ゼミナールⅡでは、研究テーマの決定に伴い研究計画書・依頼書・同意書の書類の作成、倫理審査を受ける作業を目標に学習します。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った先行研究・論文・文献検索の調査作業。 <ol style="list-style-type: none"> ① データベースから必要となる先行研究を選び出す作業。 ② 研究概要について調査・整理を実施する。 2. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 3. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 4. 研究テーマに沿って、研究デザインから仮設の設定。 <ol style="list-style-type: none"> ① 研究テーマについて、明確に述べることができる。 5. 研究計画書・研究依頼書・研究同意書・倫理審査申請に必要な書類の作成。 6. 理学療法研究卒業ゼミナールⅠにつなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：20% 研究計画書の作成：60% 口頭発表：20%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	金曜（授業の前後）、3・20 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	武井 圭一	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	研究計画立案に関する講義を受け、基礎ゼミナールⅠで立案した研究テーマに関して研究計画書を作成する。担当教員および他の学生と意見交換を通じて、妥当性や実現可能性を考慮した研究計画を作成する。研究計画の発表会を企画する。進捗状況に応じて、データ測定まで実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究分野について調べる能力を身につける。 2. ディスカッションを通じて自身の考えを具体化する能力を身につける。 3. 自ら行動し、期限までに課題を遂行する能力を身につける。 4. 研究計画書の作成と必要に応じて倫理審査を受ける。

授業内容	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った先行研究の調査作業。 2. 収集した文献を整理する作業。 3. 研究法に関する講義を受ける。 4. 研究法に関して調べ、発表する。 5. 作成段階から研究計画の発表、およびディスカッションを行う。 6. 研究計画書、必要に応じて倫理審査申請書を作成する。 7. 理学療法研究卒業ゼミナールにつなげる作業を行う。

評価法基準	研究計画書の作成 60% 口頭発表 40%
教科書	担当教員より資料を配布する。
参考書	なし
履修上の注意	自身の考えている内容について、不確かな段階から積極的に表出するように心掛ける。 他学生の意見に興味を持ち、協調して研究活動に取り組む。
オフィスアワー	火曜 (12:10~12:50)、3-11 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	富田 義人	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	医療・企業・事業など専門的なスキルを展開した講師より講義を受け、専門的な能力と共にコミュニケーション力・構想力・実践力に基づく研究デザインを担当教員の指導を受けて自ら研究デザインを探り出す。ここでは、医療・経済・環境などの社会的変化に興味をもち、より多くの課題に着目し継続的に社会構造・未来的創造をもった能力と資質を養い専門性を身につけることを学習課題とする。最終的に、教員と共に研究計画書の作成を目標とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの研究課題を探り出す。 2. 経済・地域社会・環境について調べる能力を身につける。 3. 教員・地域住民とのコミュニケーションを身につける 4. 自ら行動し研究に必要となる情報収集能力を身につける。 5. 研究に必要となる、研究計画書に必要となる書類の作成と倫理審査を受ける。

授業内容	
<p>理学療法研究基礎ゼミナールⅡでは、研究テーマの決定に伴い研究計画書・依頼書・同意書の書類の作成、倫理審査を受ける作業を目標に学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った先行研究・論文・文献検索の調査作業。 <ol style="list-style-type: none"> ① データベースから必要となる先行研究を選び出す作業。 ② 研究概要について調査・整理を実施する。 2. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 3. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 4. 研究テーマに沿って、研究デザインから仮設の設定。 <ol style="list-style-type: none"> ① 研究テーマについて、明確に述べるができる。 5. 研究計画書・研究依頼書・研究同意書・倫理審査申請に必要となる書類の作成。 <p>理学療法研究卒業ゼミナールⅠにつなげる作業を行う。</p>	

評価法基準	課題レポート：20%、研究計画書の作成：60%、口頭発表：20%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	<p>専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。</p> <p>課題レポートや発表の機会を失わないため、出席は重要。</p>
オフィスアワー	授業終了後 3・14 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	杉山 真理	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>理学療法研究基礎ゼミナールⅠの学習内容および受講してきた講義内容をもとに、研究テーマを決定し、研究計画書を作成する。倫理的な配慮についても学び、倫理審査申請の準備を行う。</p> <p>次年度の研究および学位論文作成のために論文検索、構造化抄録を作成し、先行研究で行われている内容、明確になっている事実を踏まえ、自身のテーマの新規性を明確にする。主に車椅子シーティング、生活期のリハビリテーション（肢体不自由）、障がい者スポーツをテーマとする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを決定し、研究デザインを立案することができる。 2. 研究計画書を作成できる。 3. 研究倫理について理解し、研究倫理審査申請書を作成できる。 4. 調査研究および次年度の卒業研究の準備を行うことができる。

授業内容	
<p>理学療法研究基礎ゼミナールⅡでは、研究テーマの決定に伴い研究計画書・依頼書・同意書の書類の作成、倫理審査を受ける作業を目標に学習します。</p> <p>研究テーマに沿った文献検索を行い、先行研究・論文の抄読を行う。</p> <p>先行研究および論文等の構造化抄録を作成する。</p> <p>研究テーマに沿って、研究デザインから仮説を設定する。</p> <p>研究計画書・研究依頼書・研究同意書・倫理審査申請に必要となる書類を作成する。</p> <p>理学療法研究卒業ゼミナールⅠの準備を行う。</p>	

評価法基準	<p>課題レポート：20%</p> <p>研究計画書の作成：60%</p> <p>口頭発表：20%</p>
教科書	講義にて紹介する。
参考書	講義にて紹介する。
履修上の注意	自ら学ぶ意欲と姿勢を持って参加すること。積極的な取り組みが必要です。卒業研究につながるように、計画的に学習することが必要です。
オフィスアワー	木曜（昼休み 12：10～13：00） 3-25 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	岩本浩二	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法に関連する具体的な課題からテーマを設定し、研究の過程を指導する。当ゼミナールでは「スポーツ理学療法」、「アスレティックリハビリテーション」、「肩関節痛、腰痛など運動器障害」のほか、学生が興味のあるテーマについても研究の指導を行う。研究指導のほか関連する演習課題などを実施し、より多くの理学療法士における専門性を身につけ理学療法関係の課題から、研究テーマを設定し、研究過程を通して研究の基本を学ぶ。最終的に、教員と共に研究計画書の作成を目標とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究仮説を設定することができる。 2. 研究計画書を作成するために必要となる情報を収集することができる。 3. 研究計画書を作成することができる。 4.

授業内容	
理学療法研究基礎ゼミナールⅡでは、研究テーマの決定に伴い研究計画書の作成を目標に学習します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った先行研究・論文・文献検索の調査作業。 <ol style="list-style-type: none"> ① データベースから必要となる先行研究を選び出す作業。 ② 研究概要について調査・整理を実施する。 2. 学内にとどまらず、医療・企業・地域に赴いて研究テーマを探り出す。 3. 研究課題に対し、担当教員より講義・実験の講義を受ける。 4. 研究テーマに沿って、研究デザインから仮説の設定。 <ol style="list-style-type: none"> ① 研究テーマについて、明確に述べることができる。 5. 研究計画書・研究依頼書・研究同意書・倫理審査申請に必要な書類の作成。 6. 理学療法研究卒業ゼミナールⅠにつなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：20% 研究計画書の作成：60% 口頭発表：20%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	なし
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	午前授業日：授業終了後昼休み（12:10～12:50）、4-6 研究室 午後授業日：授業後放課後（17:50～18:30）、4-6 研究室

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	田中 直樹	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	ロボットリハビリテーションの情報収集，関連する論文の要約について演習を行い，研究テーマを決定する．また，研究テーマに関連する論文の収集および要約，研究テーマに必要な評価技術，統計手法について演習を行い，研究計画書および倫理審査申請書を作成する．
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを決定する． 2. 研究に必要な情報収集ができるようになる． 3. 研究テーマに沿った論文を収集，要約できるようになる． 4. 研究テーマに必要な評価技術を習得する． 5. 研究計画書を作成する．

授業内容	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った論文を収集し，要約する 2. 研究テーマを決定する． 3. 研究計画を立案する． 4. 研究に必要な評価方法を習得する． 5. 研究計画書を作成する． 6. 倫理審査申請書を作成する．

評価法基準	課題レポート：20% 研究計画書の作成：50% 口頭発表：30%
教科書	なし
参考書	必要に応じて資料を配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法研究法の講義資料を熟読すること． ・卒業研究へとつながる科目のため，課題は能動的に取り組む姿勢が必要．
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ		担当教員	安田 和弘	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>高齢者や中枢神経疾患患者に対するシステム開発等を題材として、課題解決のためのスキルを学ぶ。具体的には、デザイン思考に基づき、ニーズドリブン型の課題解決手法を習得する。特にゼミナールⅡでは、これらの基本的な知識を講義で理解し、最終的には課題を実際に行うことで、実践力を身に付ける。最終的にはゼミナールⅠで学んだスキルと併せて、研究テーマについて課題整理、他者への伝達、文書化を高度に遂行できることを目指す。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. デザイン思考に基づき社会課題の解決手法を学ぶ。 2. 課題解決のためのマネジメント技法を習得する。 3. 適切な目標設定についての考え方を学ぶ。 4. 実際の社会課題を事例に課題解決手法を用いて解決策を提案する。

授業内容	
<p>デザイン思考の知識をもとに、各種の健康・医療福祉現場のニーズを適切に吟味し、課題解決する方法を学ぶ。医学的データベースや現場の知見を収集し、それらの整理法を習得する。課題解決のためのスキームを活用することで現場の真の課題を抽出し、そこから得られた情報を批判的に吟味、主体的に解決策を提案する能力を獲得する。本ゼミでは、中枢神経疾患や高齢者を対象として、支援システムを活用した介入研究を題材として、より臨床的な取り組みを展開する。</p>	

評価法基準	課題レポート：60%、口頭発表：40%
教科書	担当教員により資料を配布する
参考書	標準理学療法学：理学療法研究法（医学書院）
履修上の注意	ディスカッションを中心に実施するため積極的に発言すること。
オフィスアワー	火曜（12:10～12:50）、6-6 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	田畑 稔	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナール I では、3 年次までに決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。ここでは、教室では学ぶことのできない地域社会の現場に飛び込み、生きた課題に触れ、大学で獲得した知識や技術を活かし研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。また、多くの地域の人々とコミュニケーションを取ることで生きた知識や実践力の獲得につながることで、今後の職業や人生観を豊かにすることを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った実験・アンケート研究を実施・継続する。 2. 研究データ、アンケートの作成準備および作業を実施する。 3. 研究へ必要となる文献・論文を収集し、文献リストを作成する。 4. 研究データの確認作業を行う。 5. 研究データを一部解析し、集計状況の確認を行う

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナール I は、研究課題に沿った研究データ収集・アンケート研究を実施し継続する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当する教員より研究課題に対する準備・実験・アンケート等の内容確認を受ける。 2. 研究データを収集する前に、予備実験・調査を実施する。 3. 実際に研究データ収集やアンケート調査を行う。 4. 実施期間中の研究データ収集・アンケート調査の進捗状況を確認する。 5. 担当教員に確認しながら、研究データの整理・結果について十分に検討を行う。 	

評価法基準	研究成果報告：40% ゼミナール内課題：60%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	水曜（12:10-12:50）、4-1 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	清宮 清美	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナール I では、3 年次までに決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査等の研究を実施する。ここでは、教室では学ぶことのできない地域社会の現場に飛び込み、生きた課題に触れ、大学で獲得した知識や技術を活かし研究テーマに沿って実験やアンケート研究等を実施する。また、生きた知識や実践力の獲得につながることで、今後の職業や人生観を豊かにすることを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿って実験・アンケート研究等を実施する。 2. 実験装置、研究用アンケート等の作成作業。 3. 実験に必要な文研・論文の検索方法の習得。 4. 研究データをまとめる。 5. 理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる。

授業内容	
<p>下記の手順で、研究課題に沿って実験・アンケート研究を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本実験に移る前に、研究課題を担当する教員より実験・アンケートに必要な講義を受ける。 2. 実験を実施する前に、プレ実験・プレ調査を実施する。 3. 本実験・本調査を実施。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実験・アンケート等に必要な内容・条件・方法に沿って実施。 ② 本実験に際し、実験・アンケートに必要な人の確認をする。 4. 期間内に実験・アンケート調査を終わらせる。 5. 研究データの整理・結果について吟味・検討する。 6. 理学療法研究卒業ゼミナール I では、理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる作業を行う。 	

評価法基準	<p>課題レポート：20%</p> <p>研究結果作成：70%</p> <p>口頭発表：10%</p>
教科書	特になし
参考書	必要時に各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	必要な時は随時

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ		担当教員	大矢 暢久	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠでは、3年次までに決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。ここでは、教室では学ぶことのできない地域社会の現場に飛び込み、生きた課題に触れ、大学で獲得した知識や技術を活かし研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。また、多くの地域の人々とコミュニケーションを取ることで生きた知識や実践力の獲得につながることで、今後の職業や人生観を豊かにすることを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。 2. 実験装置、研究用アンケートの作成作業。 3. 実験に必要な文研・論文の検索方法の習得。 4. 研究データをまとめる。 理学療法研究卒業ゼミナールⅡにつなげる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅠでは、研究課題に沿って実験・アンケート研究を実施します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本実験に移る前に、研究課題を担当する教員より実験・アンケートに必要な講義を受ける。 2. 実験を実施する前に、プレ実験・プレ調査を実施する。 3. 本実験・本調査を実施。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実験・アンケートに必要な内容・条件・方法に沿って実施。 ② 本実験に際し、実験・アンケートに必要な人の確認をする。 4. 期間内に実験・アンケート調査を終わらせる。 5. 担当教員に確認しながら、研究データの整理・結果について吟味・検討する。 	
理学療法研究卒業ゼミナールⅠでは、理学療法研究卒業ゼミナールⅡにつなげる作業を行う。	

評価法基準	課題レポート：20% 研究結果作成：70% 口頭発表：10%
教科書・参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	水曜（12:10～13:00） 3-12 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	加藤 剛平	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナール I では、3 年次までに決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。ここでは、大学で獲得した知識や技術を活かし研究テーマに沿って実験・アンケート研究・文献調査・インタビューなどを実施する。調査を行うことで、知識を深め、実践でどのように活かしていくのか学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。 2. 実験装置、研究用アンケートの作成作業。 3. 実験に必要な文研・論文の検索方法の習得。 4. 研究データをまとめる。 理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナール I では、研究課題に沿って実験・アンケート研究・文献調査を実施する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本実験に移る前に、研究課題を担当する教員より実験・アンケート・文献調査方法について議論する 2. 実験を実施する前に、プレ実験・プレ調査を実施する。 3. 本実験・本調査を実施。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実験・アンケートに必要な内容・条件・方法に沿って実施。 ② 本実験に際し、実験・アンケートに必要な人の確認をする。 4. 期間内に調査を終わらせる。 5. 担当教員に確認しながら、研究データの整理・結果について吟味・検討する。 6. 理学療法研究卒業ゼミナール I では、理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：20% 研究結果作成：70% 口頭発表：10%
教科書	資料を配布。
参考書	資料を配布。
履修上の注意	自発性をもって取り組むこと。
オフィスアワー	授業の前後 3-20 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	武井 圭一	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナール I では、基礎ゼミナールで立案した研究計画に沿って測定・データ解析を実施する。基礎ゼミナールで学んだ研究法の知識を活かし、記述統計・確立統計で得られた分析結果を適切な図表にまとめる。また、得られた結果の解釈、先行研究との比較等の考察を加える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 得られた研究結果を適切な記述統計を用いて分析することができる。 2. 研究結果の分析結果を適切な図表にまとめることができる。 3. 理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナール I では、研究計画に沿って測定・データ解析を実施する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. データ解析に関する講義を受ける。 2. 十分な事前測定を経て、本測定を実施する。 3. 担当教員に確認しながら、研究データの整理・結果について検討する。 4. 実施した研究のプレゼンテーション資料を作成する。 5. 理学療法研究卒業ゼミナールにつなげる作業を行う。 	

評価法基準	研究結果作成：60% 口頭発表：40%
教科書	担当教員より資料を配布する。
参考書	なし。
履修上の注意	自身の考えを積極的に表出するように心掛ける。 他学生の意見に興味を持ち、積極的に質問する。
オフィスアワー	火曜（12:10～12:50）、3-11 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	富田 義人	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナール I では、3 年次までに決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。ここでは、教室では学ぶことのできない地域社会の現場に飛び込み、生きた課題に触れ、大学で獲得した知識や技術を活かし研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。また、多くの地域の人々とコミュニケーションを取ることで生きた知識や実践力の獲得につながることで、今後の職業や人生観を豊かにすることを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。 2. 実験装置、研究用アンケートの作成作業。 3. 実験に必要な文研・論文の検索方法の習得。 4. 研究データをまとめる。 理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナール I では、研究課題に沿って実験・アンケート研究を実施します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本実験に移る前に、研究課題を担当する教員より実験・アンケートに必要な講義を受ける。 2. 実験を実施する前に、プレ実験・プレ調査を実施する。 3. 本実験・本調査を実施。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実験・アンケートに必要な内容・条件・方法に沿って実施。 ② 本実験に際し、実験・アンケートに必要な人の確認をする。 4. 期間内に実験・アンケート調査を終わらせる。 5. 担当教員に確認しながら、研究データの整理・結果について吟味・検討する。 	
理学療法研究卒業ゼミナール I では、理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる作業を行う。	

評価法基準	課題レポート：20% 研究結果作成：70% 口頭発表：10%
教科書	担当教員より資料を配布。
参考書	担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。 課題レポートや発表の機会を失わないため、出席は重要。
オフィスアワー	授業終了後 3-14 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅠ		担当教員	杉山 真理	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠでは、3年次までに決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。 2. 研究に必要な文研・論文の検索方法の習得。 3. 研究データをまとめる。 4. 理学療法研究卒業ゼミナールⅡにつなげる。

授業内容	
<p>理学療法研究卒業ゼミナールⅠでは、研究課題に沿って実験・アンケート研究を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験を実施する前に、必要に応じてプレ実験・プレ調査を実施する。 2. 本実験・本調査を実施する。 3. 研究データの整理・結果について吟味・検討する。 4. 理学療法研究卒業ゼミナールⅡにつなげる作業を行う。 	

評価法基準	<p>研究成果 70%</p> <p>口頭発表 30%</p>
教科書	講義で紹介する。
参考書	講義で紹介する。
履修上の注意	研究計画書に沿って進行できるよう、自主的に学習することが求められる。
オフィスアワー	木曜（昼休み 12:10～13:00） 3-25 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	岩本 浩二	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナール I では、3 年次までに決定した研究計画書に沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。ここでは、教室では学ぶことのできない地域社会の現場に飛び込み、生きた課題に触れ、大学で獲得した知識や技術を活かし研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。また、多くの地域の人々とコミュニケーションを取ることで生きた知識や実践力の獲得につながることで、今後の職業や人生観を豊かにすることを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に従って、研究を実施することができる。 2. 結果の整理をすることができる。 3. 必要な統計的処理をすることができる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナール I では、研究課題に沿って実験・アンケート研究を実施します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本実験に移る前に、研究課題を担当する教員より実験・アンケートに必要となる講義を受ける。 2. 実験を実施する前に、プレ実験・プレ調査を実施する。 3. 本実験・本調査を実施。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実験・アンケートに必要となる内容・条件・方法に沿って実施。 ② 本実験に際し、実験・アンケートに必要となる人の確認をする。 4. 期間内に実験・アンケート調査を終わらせる。 5. 担当教員に確認しながら、研究データの整理・結果について吟味・検討する。 6. 理学療法研究卒業ゼミナール I では、理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：20% 研究結果作成：70% 口頭発表：10%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	なし
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	午前授業日：授業終了後昼休み（12:10～12:50）、4-6 研究室 午後授業日：授業後放課後（17:50～18:30）、4-6 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	田中 直樹	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	3 年次に決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。また、実験に使用する機器や評価の技術を習得し、実施する研究デザインに適切なデータ処理を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。 2. 実験に使用する機器や評価の技術を習得する。 3. 研究データをまとめる。

授業内容	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った論文を収集し、要約する。 2. 研究に必要な実験機器や評価技術を習得する。 3. 研究テーマに沿った実験・アンケート研究を行う。 4. 研究で得られたデータをまとめる。

評価法基準	課題レポート：30% 研究データの報告：30% 口頭発表：60%
教科書	なし
参考書	必要に応じて資料を配布。
履修上の注意	能動的に研究に取り組み姿勢が必要。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける。

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	安田和弘	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナール I では、3 年次までに決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。ここでは、教室では学ぶことのできない地域社会の現場に飛び込み、生きた課題に触れ、大学で獲得した知識や技術を活かし研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。また、多くの地域の人々とコミュニケーションを取ることで生きた知識や実践力の獲得につながることで、今後の職業や人生観を豊かにすることを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。 2. 実験装置、研究用アンケートの作成作業。 3. 実験に必要な文研・論文の検索方法の習得。 4. 研究データをまとめる。 5. 理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナール I では、研究課題に沿って実験・アンケート研究を実施します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本実験に移る前に、研究課題を担当する教員より実験・アンケートに必要な講義を受ける。 2. 実験を実施する前に、プレ実験・プレ調査を実施する。 3. 本実験・本調査を実施。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実験・アンケートに必要な内容・条件・方法に沿って実施。 ② 本実験に際し、実験・アンケートに必要な人の確認をする。 4. 期間内に実験・アンケート調査を終わらせる。 5. 担当教員に確認しながら、研究データの整理・結果について吟味・検討する。 6. 理学療法研究卒業ゼミナール I では、理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：20% 研究結果作成：70% 口頭発表：10%
教科書・参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	森本 晃司	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナール I では、3 年次までに決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。ここでは、教室では学ぶことのできない地域社会の現場に飛び込み、生きた課題に触れ、大学で獲得した知識や技術を活かし研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。また、多くの地域の人々とコミュニケーションを取ることで生きた知識や実践力の獲得につながることで、今後の職業や人生観を豊かにすることを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。 2. 実験装置、研究用アンケートの作成作業。 3. 実験に必要な文研・論文の検索方法の習得。 4. 研究データをまとめる。 理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナール I では、研究課題に沿って実験・アンケート研究を実施します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本実験に移る前に、研究課題を担当する教員より実験・アンケートに必要な講義を受ける。 2. 実験を実施する前に、プレ実験・プレ調査を実施する。 3. 本実験・本調査を実施。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実験・アンケートに必要な内容・条件・方法に沿って実施。 ② 本実験に際し、実験・アンケートに必要な人の確認をする。 4. 期間内に実験・アンケート調査を終わらせる。 5. 担当教員に確認しながら、研究データの整理・結果について吟味・検討する。 	
理学療法研究卒業ゼミナール I では、理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる作業を行う。	

評価法基準	課題レポート：20% 研究結果作成：70% 口頭発表：10%
教科書・参考書	適宜紹介します。
履修上の注意	提出物、発表などの期限をしっかりと守る。 不明な点があれば積極的に調べる。または、質問・相談をするようにしてください。 統計分析をしっかりと学ぶ。 論文を仕上げるにあたって、できるだけ多くの情報を解析すること。
オフィスアワー	火曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室 木曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室 金曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	灰田信英	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナール I では、3 年次までに決定した研究テーマに沿って実験・アンケート調査などの研究を実施する。ここでは、教室では学ぶことのできない地域社会の現場に飛び込み、生きた課題に触れ、大学で獲得した知識や技術を活かし研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。また、多くの地域の人々とコミュニケーションを取ることで生きた知識や実践力の獲得につながることで、今後の職業や人生観を豊かにすることを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿って実験・アンケート研究を実施する。 2. 実験装置、研究用アンケートの作成作業。 3. 実験に必要な文研・論文の検索方法の習得。 4. 研究データをまとめる。 5. 理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナール I では、研究課題に沿って実験・アンケート研究を実施します。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本実験に移る前に、研究課題を担当する教員より実験・アンケートに必要な講義を受ける。 2. 実験を実施する前に、プレ実験・プレ調査を実施する。 3. 本実験・本調査を実施。 <ol style="list-style-type: none"> ① 実験・アンケートに必要な内容・条件・方法に沿って実施。 ② 本実験に際し、実験・アンケートに必要な人の確認をする。 4. 期間内に実験・アンケート調査を終わらせる。 5. 担当教員に確認しながら、研究データの整理・結果について吟味・検討する。 6. 理学療法研究卒業ゼミナール I では、理学療法研究卒業ゼミナール II につなげる作業を行う。 	

評価法基準	課題レポート：20% 研究結果作成：70% 口頭発表：10%
教科書・参考書	担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。

科目名	理学療法研究卒業ゼミナール I		担当教員	西澤 達夫	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>「一人ひとりに合った支援システム・機器の研究開発」をテーマとして、ICT を応用した支援機器の個別障害対応の研究を行う。</p> <p>基礎ゼミナール I、II の調査、評価結果を元に、具体的な障害を想定して、ICT 機器と 3D プリンタによる部品を組み合わせることで、支援機器の商品企画を行い 3DCAD で設計する。</p> <p>その 3DCAD 設計データを用いて 3D プリンタで造形して、有効性を実証事件で検証する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ICT を応用した支援機器についての障害者のニーズを把握できる。 2. ニーズを元にした商品企画を行うことができる。 3. 3DCAD の設計、および 3D プリンタの造形技術を身に付ける。 4. 実証実験により科学的に効果を実証できる力を身に付ける。

授業内容	
<p>「一人ひとりに合った支援システム・機器の研究開発」をテーマとして、ICT を応用した支援機器の個別障害対応の研究を行う。具体的な障害を想定して、既存の ICT 機器のユーザインタフェース部をカスタマイズする手法で商品企画から試作品による効果検証までを行う。</p> <p>ユーザインタフェース部のカスタマイズは 3DCAD と 3D プリンタを組み合わせることで実現する。人体の一部と密結合する箇所については、3D キャプチャを用いて、該当する人体の一部を 3D データに変換することで、3DCAD に取り込んで設計データの一部として扱う。</p> <p>この 3DCAD 設計データを用いて 3D プリンタで造形して、効果を実証事件で検証する。</p>	

評価法基準	課題レポート：100%
教科書	担当教員により資料を配布する
参考書	Fusion360 操作ガイド
履修上の注意	専門領域の情報を積極的に収集する
オフィスアワー	火曜日（12:10-12:50）、5-4 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	田畑 稔	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に研究論文を仕上げていく。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を担当ゼミごとに実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと論文の執筆を実施する。 3. 卒業論文の作成・レジメ作成・研究発表会の準備をする。 4. 担当教員と共に卒業論文を仕上げる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでに行ってきた研究実験・調査から論理的に仕上げ、要約・発表用パワーポイントを作成する。さらに、可能であれば、卒業研究論文を作成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 当該研究の追実施・実験・調査について必要があれば実施する。 2. 研究で得られたデータについて十分に検討する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。研究発表に相応しいデータ整理・図表化を実践する。 4. 研究発表用レジメ・パワーポイント作成 5. 担当教員および所属するゼミナール内で中間発表を実施し、発表能力の向上を図る。 6. 研究最終発表を実施する。 7. 研究発表後、可能な場合、研究論文作成を行い、研究論文を提出する。 	

評価法基準	ゼミナール課題：30% 研究要約の作成：30% 卒業研究発表：40%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。
オフィスアワー	水曜（12:10-12:50）、4-1 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	清宮 清美	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し論理的に研究論文を仕上げていく。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジюме・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと論文の執筆を実施する。 3. 卒業論文の作成・レジюме作成・研究発表会の準備をする。 4. 卒業論文を仕上げる。

授業内容	
<p>これまでに行ってきた研究実験や調査を論理的に論文に仕上げ、レジюме・発表用パワーポイントの作成、最終的に卒業研究論文を作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の実施、再実験・調査を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。論文に相応しいデータ整理・図表化を学ぶ。 4. 研究発表用レジюме・パワーポイントの作成 5. 中間発表を担当教員の下で実施し、発表能力の向上を図る。 6. 研究発表を実施する。 7. 発表後に最終調整を実施、最終論文提出、論文作成を行う。 	

評価法基準	卒業論文の提出：60% 発表用レジюме提出：10% 発表用パワーポイント作成：30%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	特になし。
履修上の注意	専門領域の指導を積極的に受ける。 統計分析をしっかり学ぶ。 論文を仕上げるにあたって、できるだけ多くの情報を解析すること。
オフィスアワー	必要な時に随時受け付ける。

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	大矢 暢久	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に研究論文を仕上げていく。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を担当ゼミごとに実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと論文の執筆を実施する。 3. 卒業論文の作成・レジメ作成・研究発表会の準備をする。 担当教員と共に卒業論文を仕上げる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでに行ってきた研究実験・調査を論理的に論文を仕上げ、レジメ・発表用パワーポイントの作成、最終的に卒業研究論文を作成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の実施、再実験・調査を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。 研究で得られたデータの分析方法を再学習する。論文に相応しいデータ整理・図表化を学ぶ。 4. 研究発表用レジメ・パワーポイントの作成 5. 中間発表を担当教員の下で実施し、発表能力の向上を図る。 6. 研究発表を実施する。 発表後に最終調整を実施、最終論文提出、論文作成を行う。	

評価法基準	卒業論文の提出：60% 発表用レジメ提出：10% 発表用パワーポイント作成：30%
教科書・参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。 統計分析をしっかり学ぶ。 論文を仕上げるにあたって、できるだけ多くの情報を解析すること。
オフィスアワー	水曜（12:10～13:00） 3-12 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	加藤 剛平	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果の発表に向けた作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に発表内容を仕上げていく。発表内容の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を担当ゼミごとに実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと発表内容を作成する。 3. 発表内容の作成・レジメ作成・研究発表会の準備をする。 4. 担当教員と共に発表内容を仕上げる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでにやってきた研究実験・調査を基に発表内容を仕上げ、レジメ・発表用パワーポイントを作成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の実施、再実験・調査を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。 研究で得られたデータの分析方法を再学習する。論文に相応しいデータ整理・図表化を学ぶ。 4. 研究発表用レジメ・パワーポイントの作成 5. 中間発表を担当教員の下で実施し、発表能力の向上を図る。 6. 研究発表を実施する。 	
発表後に最終調整を実施、発表内容を作成し、提出する。	

評価法基準	発表内容の提出：60% 発表用レジメ提出：10% 発表の実施：30%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	自発的に取り組むこと。
オフィスアワー	授業の前後 3-20 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	武井 圭一	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果発表を実施する。基礎ゼミナールで学んだプレゼンテーションに関する知識・技術を活かし、担当教員とともに研究成果のプレゼンテーション資料を作成する。発表会前にゼミ内で中間発表会を実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 得られたデータを抄録・スライド形式でまとめることができる。 2. 論理的に考察できる。 3. 基本的なプレゼンテーション技法を用いて研究発表ができる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでに行ってきた研究計画、測定データを論理的にスライド資料にまとめる。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究で得られたデータの図表を作成する。 2. 研究発表用のスライドを作成する。 3. 中間発表を担当教員のもとで実施し、発表能力の向上を図る。 4. 研究発表を実施する。 5. 必要に応じて、卒業論文を作成する。 	

評価法基準	発表用スライド提出：60% 口頭発表：40%
教科書	担当教員より資料を配布する。
参考書	なし
履修上の注意	自身の考えを積極的に表出するように心掛ける。 他学生の意見に興味を持ち、積極的に質問する。
オフィスアワー	火曜（12:10～12:50）、3-11 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	富田 義人	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に研究論文を仕上げていく。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を担当ゼミごとに実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと論文の執筆を実施する。 3. 卒業論文の作成・レジメ作成・研究発表会の準備をする。 4. 担当教員と共に卒業論文を仕上げる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでに行ってきた研究実験・調査を論理的に論文を仕上げ、レジメ・発表用パワーポイントの作成、最終的に卒業研究論文を作成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の実施、再実験・調査を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。 研究で得られたデータの分析方法を再学習する。論文に相応しいデータ整理・図表化を学ぶ。 4. 研究発表用レジメ・パワーポイントの作成 5. 中間発表を担当教員の下で実施し、発表能力の向上を図る。 6. 研究発表を実施する。 	
発表後に最終調整を実施、最終論文提出、論文作成を行う。	

評価法基準	卒業論文の提出：60% 発表用レジメ提出：10% 発表用パワーポイント作成：30%
教科書	担当教員より資料を配布。
参考書	担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。統計分析をしっかり学ぶ。 論文を仕上げるにあたって、できるだけ多くの情報を解析すること。 課題レポートや発表の機会を失わないため、出席は重要。
オフィスアワー	授業終了後 3-14 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	杉山 真理	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に研究論文を仕上げていく。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を担当ゼミごとに実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと論文の執筆を実施する。 3. 卒業論文の作成・レジメ作成・研究発表会の準備をする。 4. 担当教員と共に卒業論文を仕上げる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでに行ってきた研究実験・調査の論文化を行い、レジメ・発表用パワーポイントの作成、最終的に卒業研究論文を作成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の実施、再実験・調査を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。 研究で得られたデータの分析方法を再学習する。論文に相応しいデータ整理・図表化を学ぶ。 4. 研究発表用レジメ・パワーポイントを作成する。 5. 研究発表を実施する。 6. 発表後に最終調整を実施、最終論文提出、論文作成を行う。 	

評価法基準	卒業論文の提出：60% 発表用パワーポイント作成：40%
教科書	必要に応じて講義中に紹介する。
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。
履修上の注意	自主的かつ積極的に取り組む姿勢が必要です。
オフィスアワー	木曜（昼休み 12：10～13：00） 3-25 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	岩本 浩二	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に研究論文を仕上げていく。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を担当ゼミごとに実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと論文の執筆を実施できる。 3. 論文の形式にまとめることができる。 4. 研究発表のためレジメ作成など必要な準備ができる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでに行ってきた研究実験・調査を論理的に論文を仕上げ、レジメ・発表用パワーポイントの作成、最終的に卒業研究論文を作成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の実施、再実験・調査を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。 研究で得られたデータの分析方法を再学習する。論文に相応しいデータ整理・図表化を学ぶ。 4. 研究発表用レジメ・パワーポイントの作成 5. 中間発表を担当教員の下で実施し、発表能力の向上を図る。 6. 研究発表を実施する。 	
発表後に最終調整を実施、最終論文提出、論文作成を行う。	

評価法基準	卒業論文の提出：60% 発表用レジメ提出：10% 発表用パワーポイント作成：30%
教科書	各担当教員より資料を配布。
参考書	なし
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。 論文を仕上げるにあたって、できるだけ多くの情報を解析すること。
オフィスアワー	午前授業日：授業終了後昼休み（12:10～12:50）、4-6 研究室 午後授業日：授業後放課後（17:50～18:30）、4-6 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	田中 直樹	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	研究テーマに沿った研究を行い、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を客観的に分析し、論理的に研究論文を仕上げる。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景、目的、実験方法、結果、考察をパワーポイントで作成し、研究発表を実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究で得られたデータを分析する。 2. 分析結果から理論的な思考のもと研究論文を作成する。 3. パワーポイントを用いて研究発表資料を作成する。

授業内容	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに沿った研究を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究で得られたデータを分析する。 4. 分析したデータを整理し、図表化する。 5. 分析した結果を理論的に考察する。 6. 研究発表用のパワーポイントを作成する。 7. 研究発表を実施する。 8. 研究論文を作成する。

評価法基準	卒業論文の提出：60% 研究発表：20% 発表用パワーポイントの提出：20%
教科書	なし
参考書	必要に応じて資料を配布
履修上の注意	能動的に研究に取り組む姿勢が必要。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける。

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	安田 和弘	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に研究論文を仕上げていく。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を担当ゼミごとに実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと論文の執筆を実施する。 3. 卒業論文の作成・レジメ作成・研究発表会の準備をする。 4. 担当教員と共に卒業論文を仕上げる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでに行ってきた研究実験・調査を論理的に論文を仕上げ、レジメ・発表用パワーポイントの作成、最終的に卒業研究論文を作成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の実施、再実験・調査を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。 研究で得られたデータの分析方法を再学習する。論文に相応しいデータ整理・図表化を学ぶ。 4. 研究発表用レジメ・パワーポイントの作成 5. 中間発表を担当教員の下で実施し、発表能力の向上を図る。 6. 研究発表を実施する。 7. 発表後に最終調整を実施、最終論文提出、論文作成を行う。 	

評価法基準	卒業論文の提出：60% 発表用レジメ提出：10% 発表用パワーポイント作成：30%
教科書・参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。 統計分析をしっかり学ぶ。 論文を仕上げるにあたって、できるだけ多くの情報を解析すること。

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	森本 晃司	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に研究論文を仕上げていく。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を担当ゼミごとに実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと論文の執筆を実施する。 3. 卒業論文の作成・発表資料作成・研究発表会の準備をする。 担当教員と共に卒業論文を仕上げる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでに行ってきた研究実験・調査を論理的に論文を仕上げ、発表用パワーポイント及び資料の作成、最終的に卒業研究論文を作成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の実施、再実験・調査を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。 研究で得られたデータの分析方法を再学習する。論文に相応しいデータ整理・図表化を学ぶ。 4. 研究発表用資料・パワーポイントの作成 5. 中間発表を担当教員の下で実施し、発表能力の向上を図る。 6. 研究発表を実施する。 発表後に最終調整を実施、最終論文提出、論文作成を行う。	

評価法基準	卒業論文の提出：60% 発表用資料提出：10% 発表用パワーポイント作成：30%
教科書・参考書	適宜紹介します
履修上の注意	提出物、発表などの期限をしっかりと守る。 不明な点があれば積極的に調べる。または、質問・相談をするようにしてください。 統計分析をしっかり学ぶ。 論文を仕上げるにあたって、できるだけ多くの情報を解析すること。
オフィスアワー	火曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室 木曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室 金曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	灰田信英	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法研究卒業ゼミナールⅠを踏まえて研究成果を卒業研究論文に仕上げる作業を行う。本研究を実施し、研究データを収集・整理し得られた結果の考察を繰り返しながら客観的に分析し教員と共に論理的に研究論文を仕上げていく。卒業論文の仕上げに向けて、研究背景・目的・実験方法などレジメ・パワーポイントの作成と修正し、全体の研究発表を実施する。本番の発表前に、中間発表会を担当ゼミごとに実施し最終調整を行って研究発表に臨む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験、調査で得られたデータを客観的に整理・分析・解析、研究結果をまとめる。 2. 論理的な考察・思考のもと論文の執筆を実施する。 3. 卒業論文の作成・レジメ作成・研究発表会の準備をする。 4. 担当教員と共に卒業論文を仕上げる。

授業内容	
理学療法研究卒業ゼミナールⅡでは、これまでに行ってきた研究実験・調査を論理的に論文を仕上げ、レジメ・発表用パワーポイントの作成、最終的に卒業研究論文を作成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の実施、再実験・調査を実施する。 2. 研究で得られたデータを整理する。 3. 研究データの統計分析・解析を実施する。 研究で得られたデータの分析方法を再学習する。論文に相応しいデータ整理・図表化を学ぶ。 4. 研究発表用レジメ・パワーポイントの作成 5. 中間発表を担当教員の下で実施し、発表能力の向上を図る。 6. 研究発表を実施する。 7. 発表後に最終調整を実施、最終論文提出、論文作成を行う。 	

評価法基準	卒業論文の提出：60% 発表用レジメ提出：10% 発表用パワーポイント作成：30%
教科書・参考書	各担当教員より資料を配布。
履修上の注意	専門領域や地域の人々の指導を積極的に受ける。 統計分析をしっかり学ぶ。 論文を仕上げるにあたって、できるだけ多くの情報を解析すること。

科目名	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ		担当教員	西澤 達夫	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>「一人ひとりに合った支援システム・機器の研究開発」をテーマとして、ICT を応用した支援機器の個別障害対応の研究を行う。</p> <p>理学療法研究卒業ゼミナールⅠの検証結果に基づき、完成度を上げる改良研究を行うとともに、結果を研究報告として発表する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ICT を応用した支援機器についての障害者のニーズを把握できる。 2. ニーズを元にした商品企画を行うことができる。 3. 3DCAD の設計、および 3D プリンタの造形技術を身に付ける。 4. 実証実験により科学的に効果を実証できる力を身に付ける。 5. 研究結果のまとめ、報告を行う力を身に付ける。

授業内容	
<p>「一人ひとりに合った支援システム・機器の研究開発」をテーマとして、ICT を応用した支援機器の個別障害対応の研究を行う。具体的な障害を想定して、既存の ICT 機器のユーザインタフェース部をカスタマイズする手法で商品企画から試作品による効果検証までを行う。</p> <p>理学療法研究卒業ゼミナールⅠの検証結果に基づき、完成度を上げる改良研究を行う。ユーザインタフェース部のカスタマイズは 3DCAD と 3D プリンタを組み合わせることで実現する。人体の一部と密結合する箇所については、3D キャプチャを用いて、該当する人体の一部を 3D データに変換することで、3DCAD に取り込んで設計データの一部として扱う。</p> <p>この 3DCAD 設計データを用いて 3D プリンタで造形して、効果を実証事件で検証するとともに、研究発表用レジメ・パワーポイントを作成し、研究成果を発表する。</p>	

評価法基準	<p>発表用レジメ提出：10%</p> <p>発表用パワーポイント作成：60%</p> <p>口頭発表：30%</p>
教科書	担当教員により資料を配布する
参考書	Fusion360 操作ガイド
履修上の注意	専門領域の情報を積極的に収集する
オフィスアワー	火曜日（12:10-12:50）、5-4 研究室